

Fintech及びキャッシュレス動向について

Fintech Association of Japan

Fintech協会
June 16th, 2023

日本を起点にしたFintechエコシステムの拡大を 支援するためMeetupから発足し現在第7期

2014年

FINTECH MEETUP



カジュアルなMeetupが
協会の前身

2015年

FINTECH ASSOCIATION



ベンチャー、大手企業の
賛同を得て法人化

Mission

日本を起点として、
人々のあまねく生活、
事業活動の向上に貢献するべく、
ユーザーに寄り添った
新たな金融サービスを
社会に実装すること

活動指針

スタートアップが中心となり、
マルチステークホルダーとの
オープンイノベーションや
法制度も含めた金融取引環境の
整備を通じ、国内外の金融業界の
持続的かつ健全な発展を推進

ベンチャー会員

様々な事業を展開するFintechベンチャー121社*が参加 *2023/4/13時点でHP掲載分

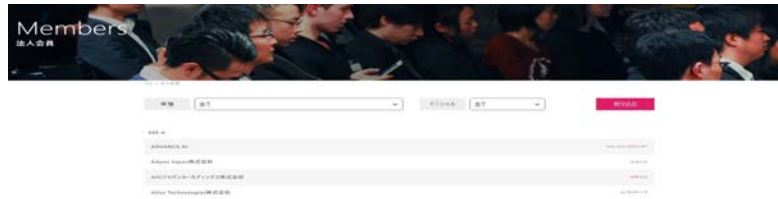


▼ベンチャー会員企業社一覧



法人会員

日本を代表する大手企業を含めて337社*が参加 *2023/4/13時点でHP掲載分



▼法人会員企業社一覧



業態やテーマごとに10の分科会から情報発信

No	分科会名	概要(主な検討内容等)
1	コンプライアンス	プラットフォームビジネスと各種金融規制の課題、ビッグデータやAIによるプロファイリングやスコアリングモデル、効率的な本人確認に係る諸課題について
2	融資・与信	トランザクションレンディングやソーシャルレンディングの制度課題など、融資に活用できるデータ流通について
3	保険	InsurTechに関する検討。保険関連の法律や規制、ビッグデータ、AI、顧客のUX体験など
4	決済・送金	より安価で迅速な利便性の高い「送金・資金移動」業界の発展に向けた各種調査研究。KYCや関連規制についての意見交換など
5	RegTech・SupTech	RegTech・SupTechに代表されるデータやテクノロジーを活用した新たなガバナンスのあり方や、監督上、規制対応上のテクノロジー利用の在り方について
6	キャピタルマーケット	クラウドファンディングやICOなど、日本の発行体が資本市場で抱える課題を新しいテクノロジーで解決し、より公正かつ効率的で透明性が高い市場形成に向けて議論しています。
7	オンライン型ファクタリング	関連法への理解を深めるためのナレッジ共有や会員企業間の情報交換の機会、業界としての意見集約などを検討
8	セキュリティ	会員向けの情報共有や他団体との連携等を通じて、Fintechのセキュリティ水準の向上を図る
9	データ流通	API等を通じてやり取りされるデータについて、その流通・活用を促進するために必要なルールやスキーム。個人情報保護法を始めとする情報法制や情報銀行等の流通スキームなど
10	ESG・サステナビリティ	ESG投資、グリーン・サステナブルファイナンス、インパクト投資の普及に向けた関係各所とのディスカッションや勉強会の開催。会員企業への海外ESG・サステナビリティ関連情報提供の強化

全銀ネット有識者会議、 次世代資金決済システムに関する検討タスクフォース及び各WG

(検討体制イメージ)



「中央銀行デジタル通貨に関する連絡協議会」

中央銀行デジタル通貨に関する連絡協議会

中間整理

2022年5月13日

2022年5月13日
日本銀行決済機構局

「中央銀行デジタル通貨に関する連絡協議会」第3回会合の議事要旨

1. 開催要領

(日時) 2022年4月13日(水) 14時～16時
(形式) Web会議形式
(参加者) 別紙のとおり。

2. 日本銀行からの説明等

- 冒頭、内田理事より挨拶¹。その後、日本銀行における中央銀行デジタル通貨(CBDC)の取り組みに関し、事務局から、①総論および実証実験(資料² 1～16ページ)、②制度設計に関する論点(同 17～23ページ)および事務局による「中間整理」³について説明を行った。
- 制度設計に関する論点を議論するに当たり、全国銀行資金決済ネットワークより、次世代資金決済システム(全銀システムの高度化に関する取り組み)について説明(別添)が行われた。

国際金融都市である東京、福岡、大阪との提携を実施



2020年、
東京コンソーシアム参画

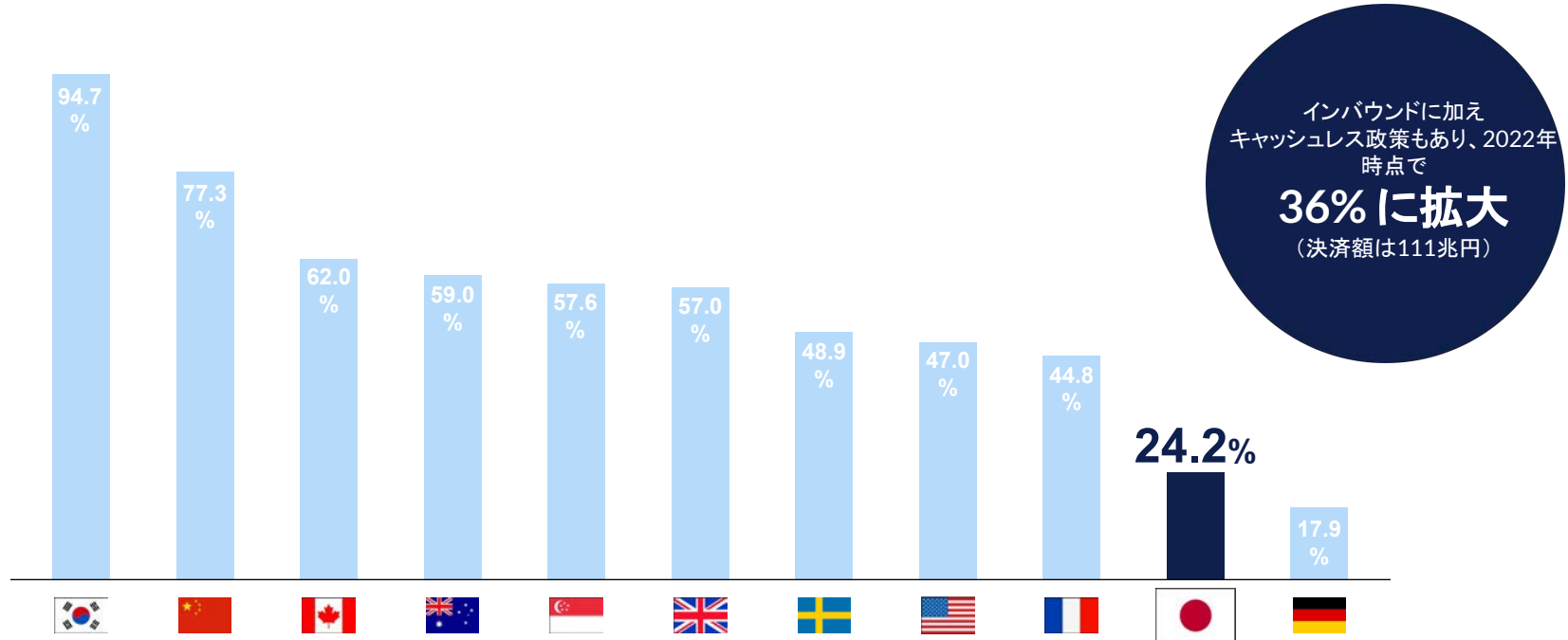
2021年、
福岡県とMoU締結



2021年、
大阪府・大阪市と
MoU締結

日本のキャッシュレスについて

主要国と比較した日本のキャッシュレス比率



資料元：インキュリオン社「決済動向調査」

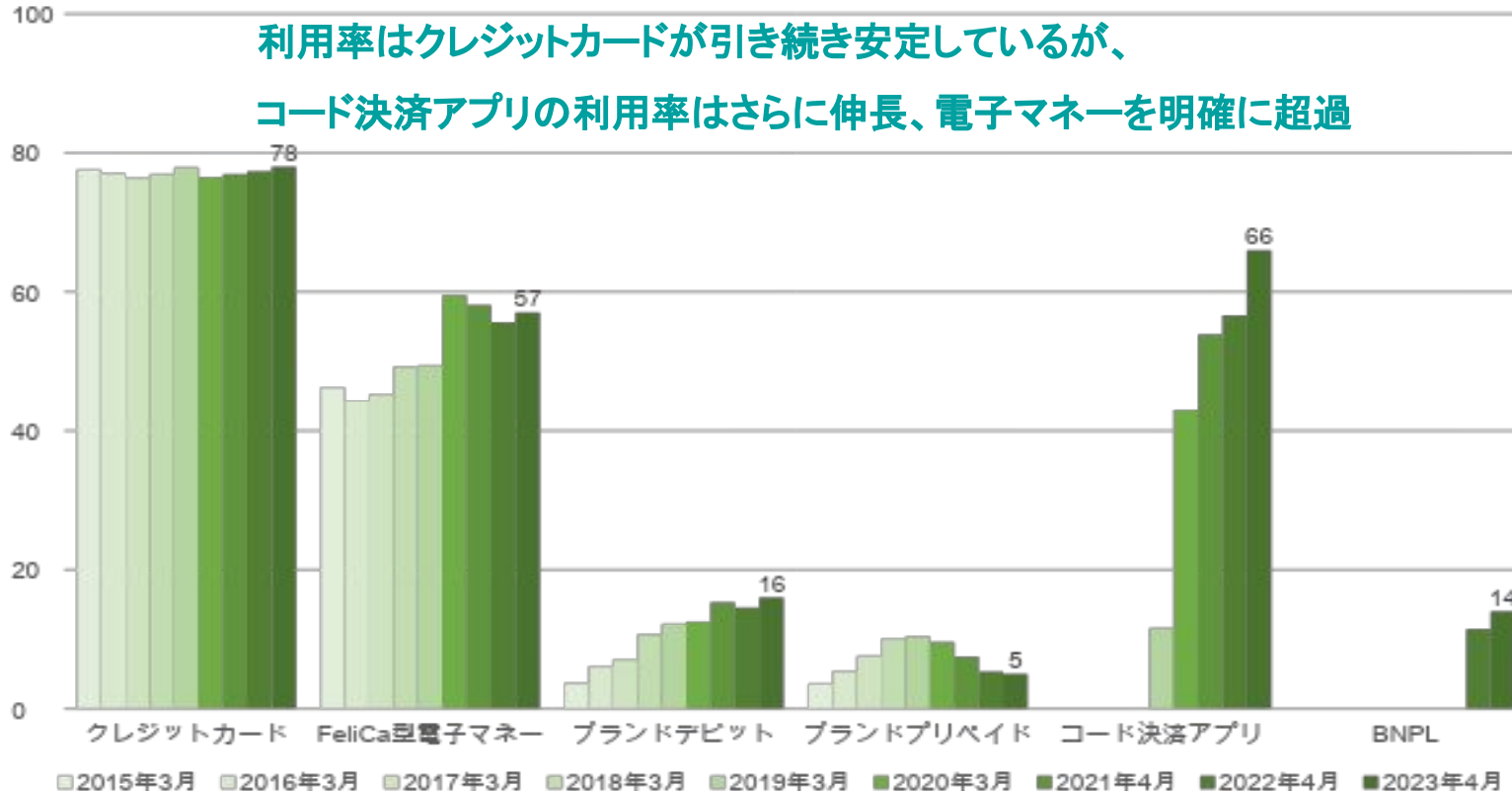
- 2015年3月より、決済サービス利用状況・買い物行動・金融デジタルチャネル利用について定期調査を実施
- 2段階構成のインターネット調査 ※調査回によって例外あり
 - i. 20,000人規模の全体調査
 - ii. 対象者824人の詳細調査
- 定点観測テーマによる継続的データ収集、特集テーマによる市場トレンド発見

調査の実績

実施年月	全体調査規模	実施年月	全体調査規模
2015年3月	20,000人	2020年6月	20,000人
2016年3月	20,000人	2020年12月	5,000人
2017年3月	20,000人	2021年4月	20,000人
2018年3月	20,000人	2021年12月	5,000人
2019年3月	20,000人	2022年4月	20,000人
2019年10月	20,000人	2022年12月	5,000人
2020年3月	20,000人	2023年4月	20,000人

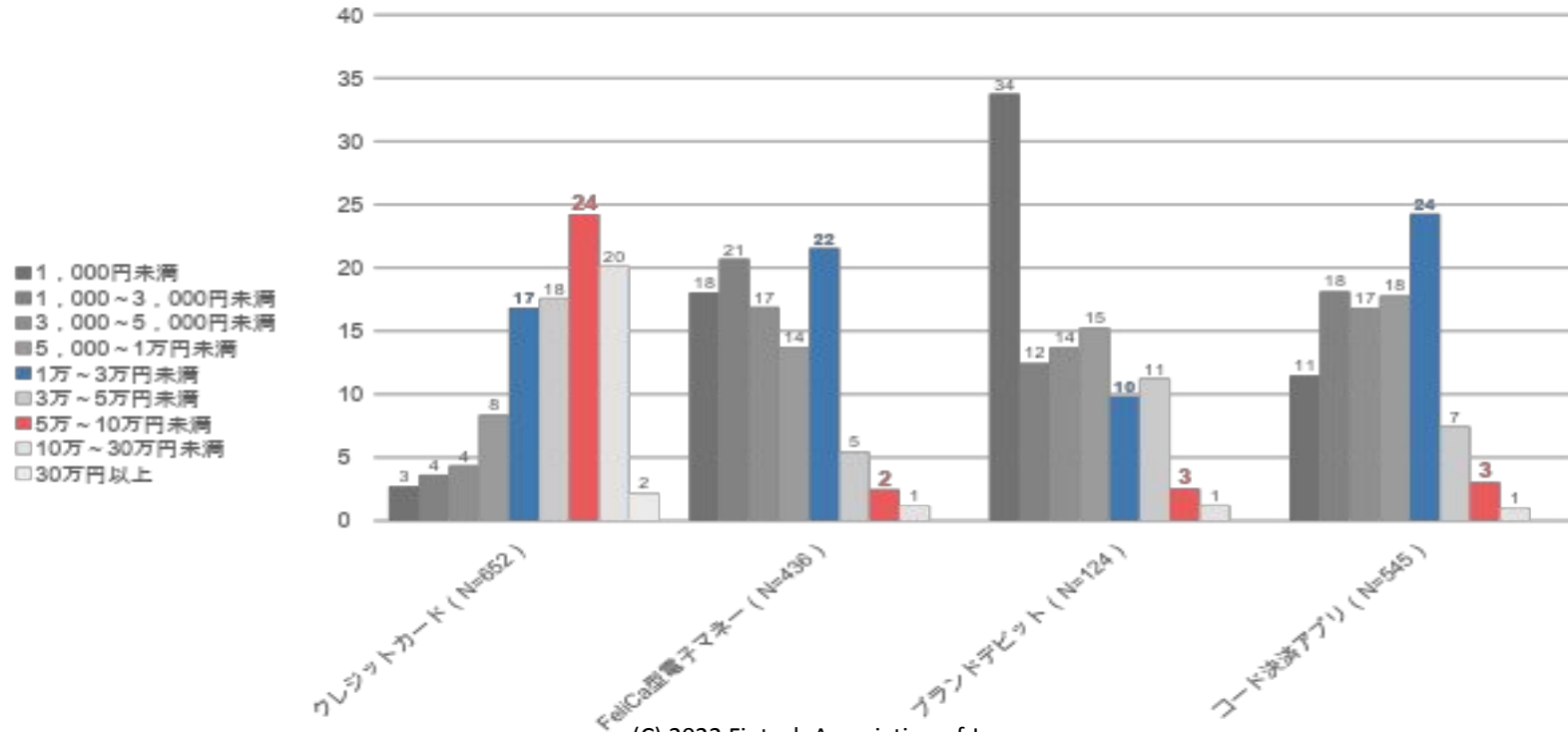
決済種別ごとの利用率の推移 (2015-2023)

(複数回答; N=20,000)



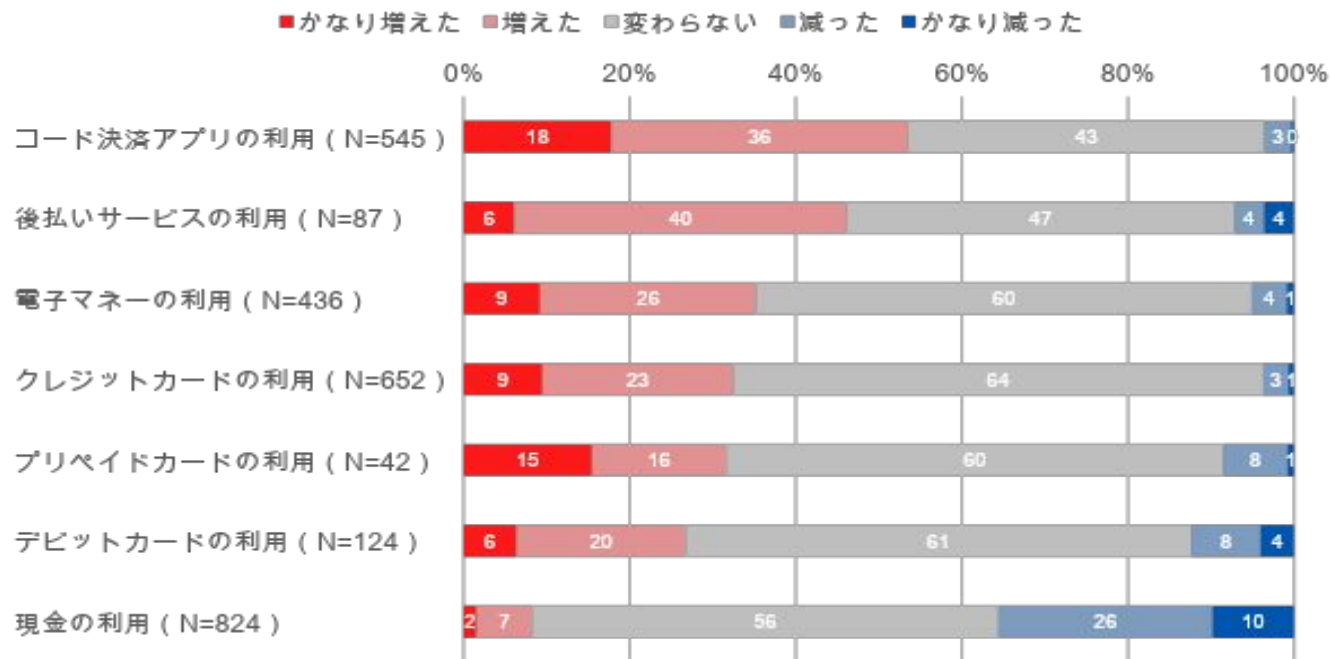
決済手段ごとの月間平均利用額

利用者に対し、クレジットカード／FeliCa型電子マネー／ブランドデビット／コード決済アプリの1ヶ月の平均利用金額を聴取
 クレジットカードの最頻値は「5万～10万円未満」、FeliCa型電子マネーとコード決済アプリは「1万～3万円未満」
 ブランドデビットは「1000円未満」が突出、持っはいるがあまり使われていない実態が浮き彫り

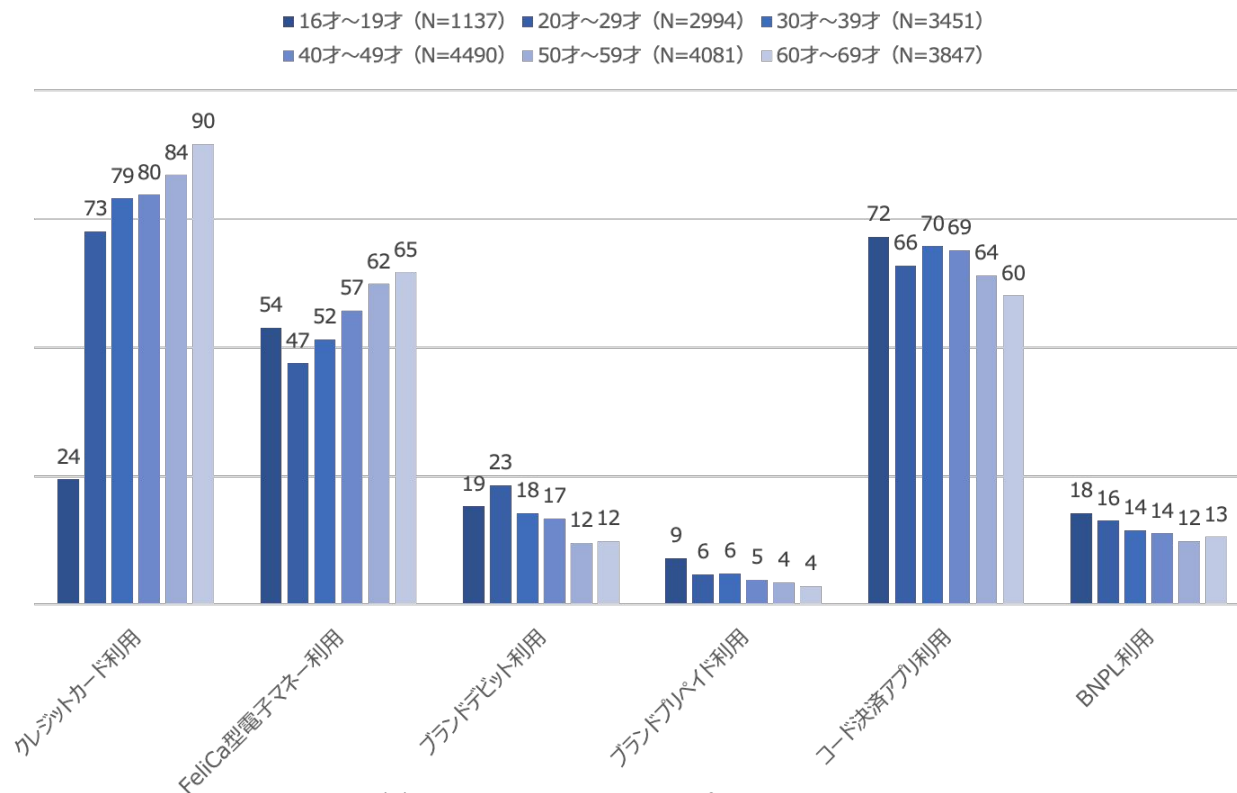


1年前と比較した利用増減

1年前とくらべて、あなた自身の現在の決済方法に変化はありますか。以下のそれぞれについて、利用の増減についてお答えください。



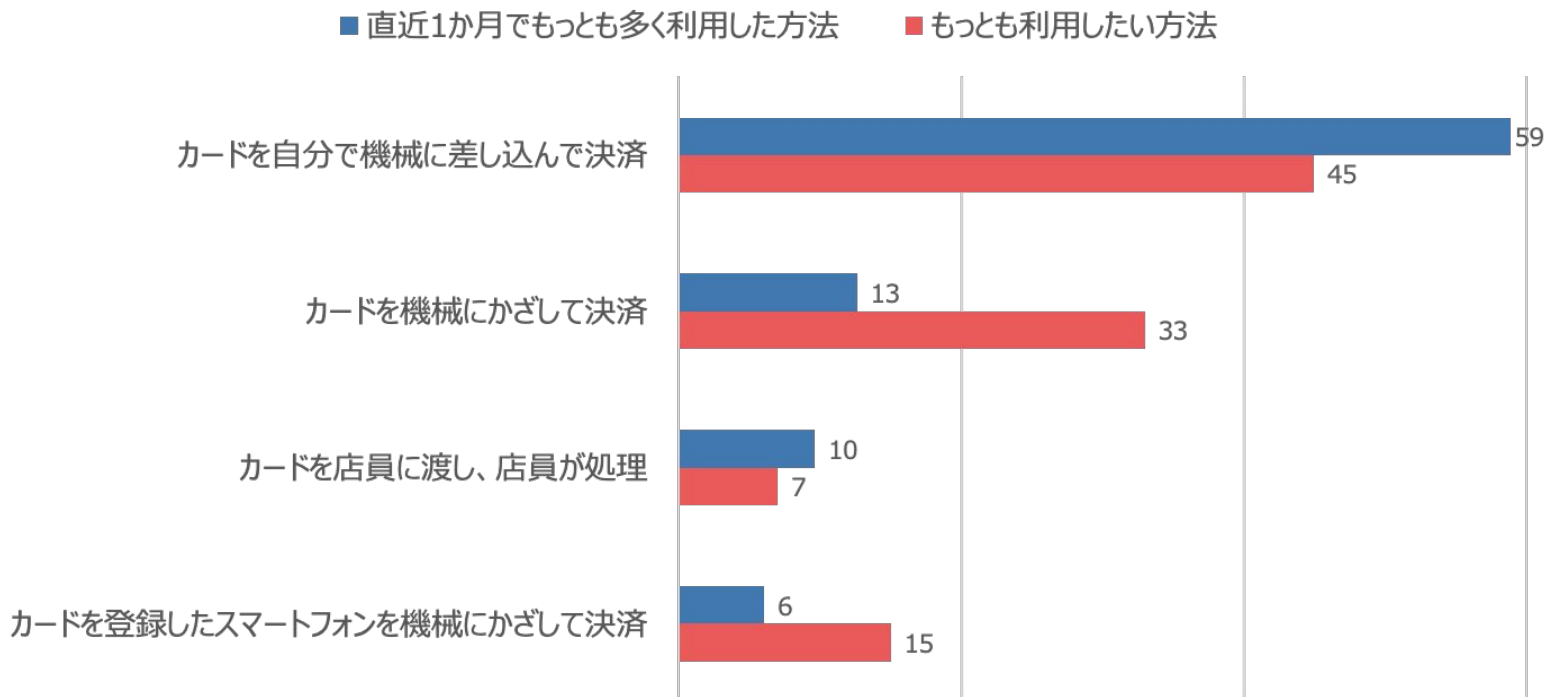
決済手段ごとの年齢階層について



クレジットカードの利用方法

過去1か月を振り返ってください。クレジットカードをお店のレジで利用する場面で、あなたがもっとも多く利用した方法をお選びください。
クレジットカードをお店のレジで利用する場面で、あなたがもっとも利用したい方法をお選びください。

N=653(クレジットカード利用者)



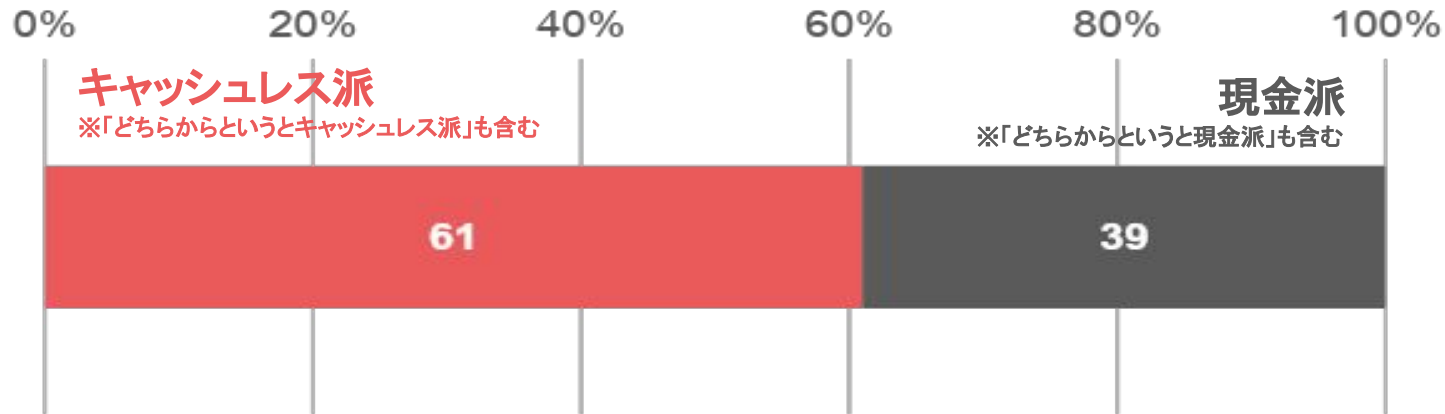
キャッシュレス派と現金派

もしすべての人を「現金派」と「キャッシュレス派」に分けるとしたら、あなた自身はどちらになると思いますか。

- 現金派＝現金をよく利用する人、
 - キャッシュレス派＝カードや電子マネー、決済アプリなど現金以外の支払い方法をよく利用する人、
- とお考え下さい。

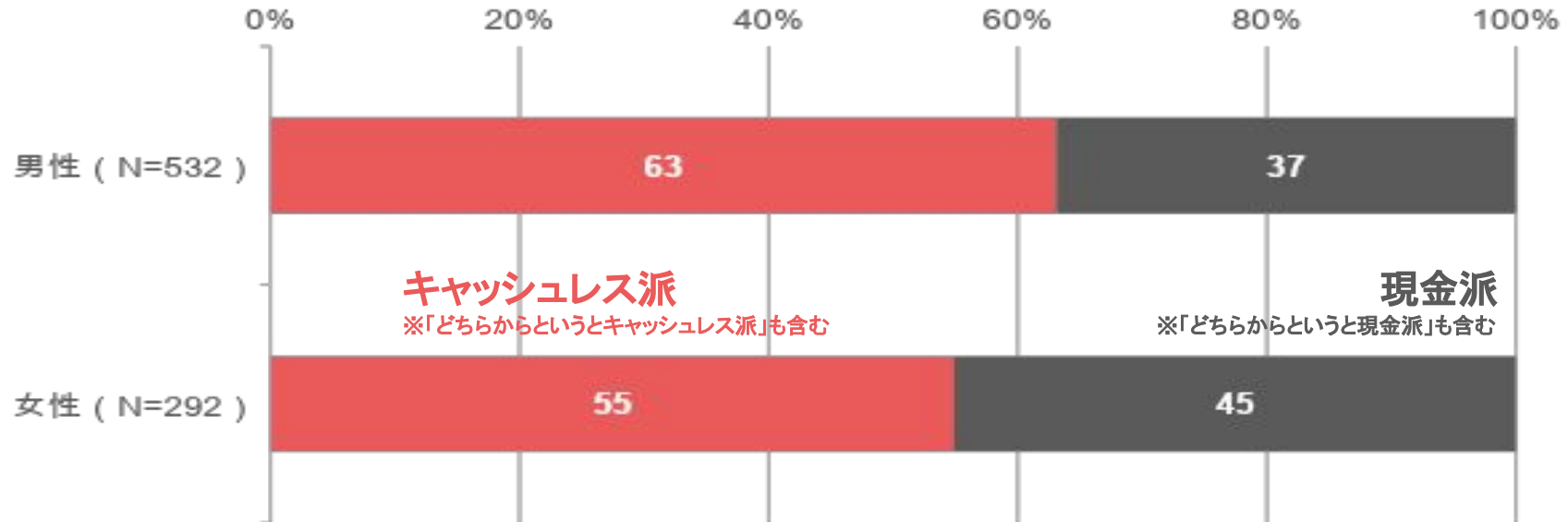
N=824(全員)

消費者の6割以上はキャッシュレス派を自認



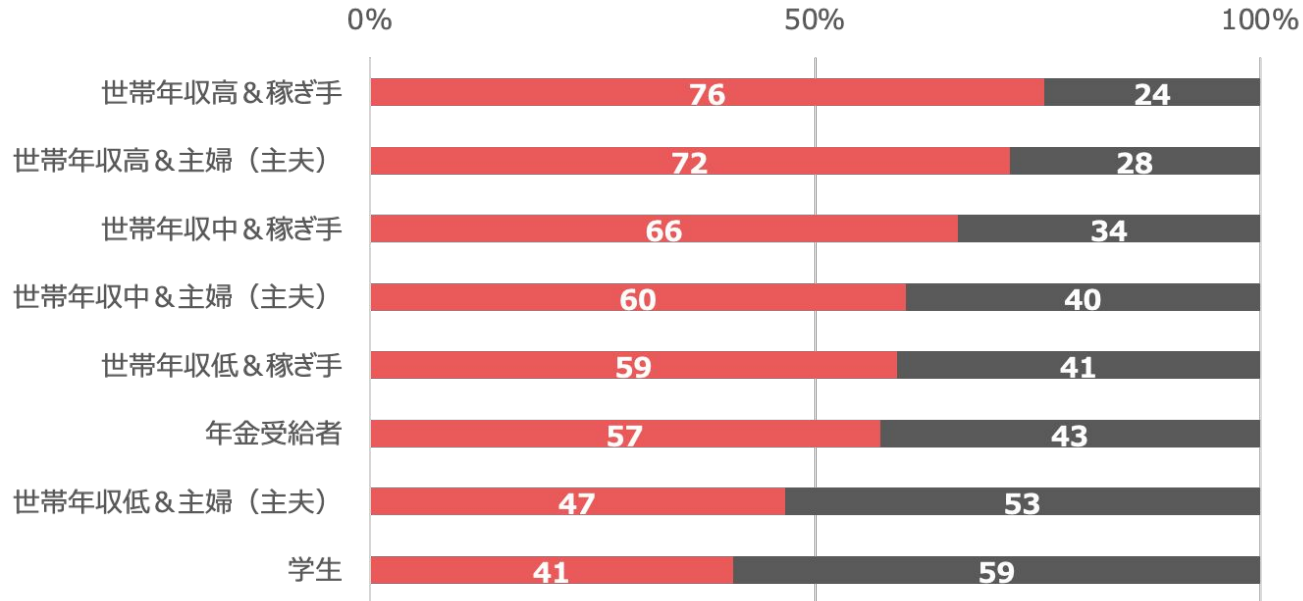
キャッシュレス派はどんな人？（男女比較）

男女別で見ると、男性のほうがキャッシュレス派の割合がやや多い



キャッシュレス派はどんな人？ 勤労状況・世帯年収・生計上の立場

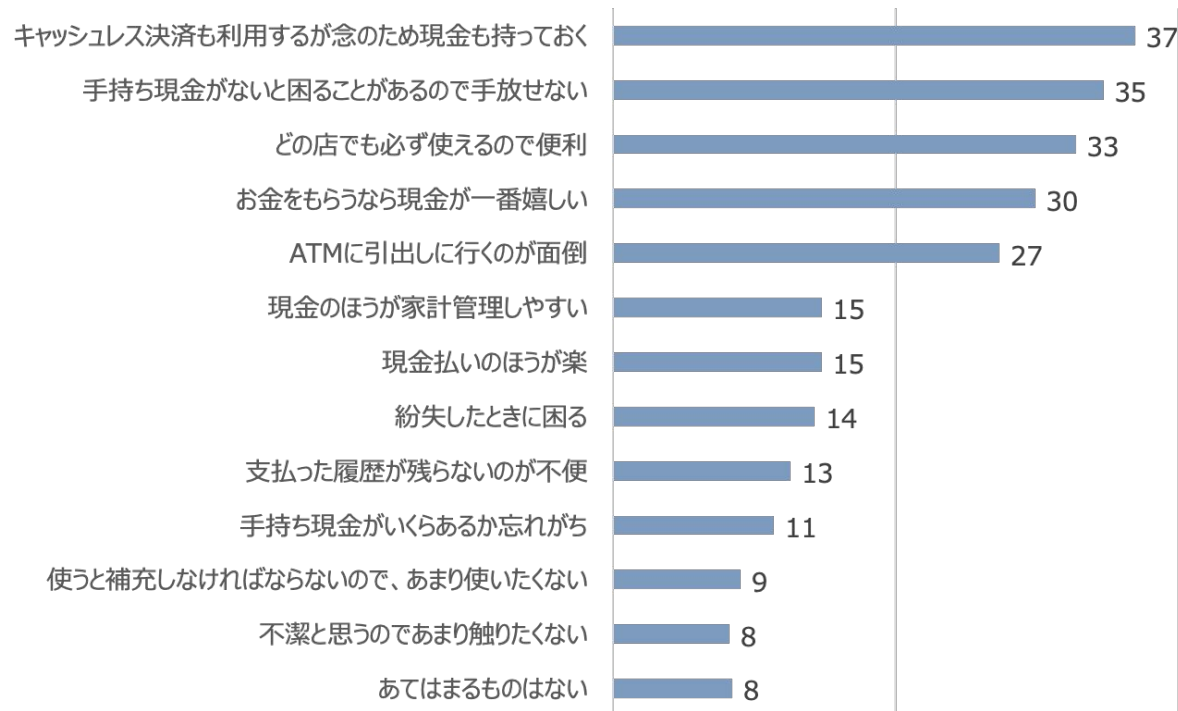
世帯年収とともにキャッシュレス派の割合も増大
「稼ぎ手」と「主婦（主夫）」では稼ぎ手のほうがキャッシュレス派の割合が高い
全セルのうちもっともキャッシュレス派の割合が低いのは「学生」



現金への態度

現金(紙幣、硬貨)に対するあなた自身の態度についてお聞きます。

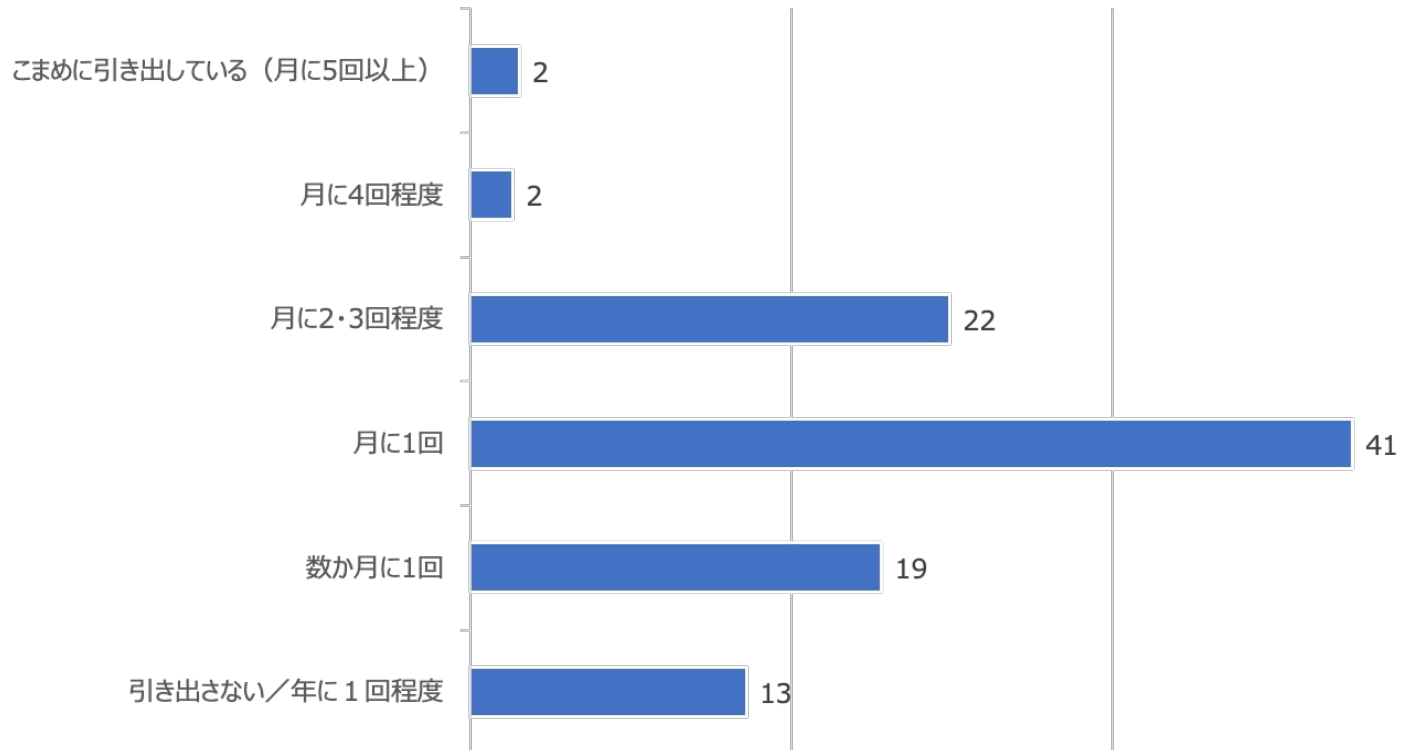
N=824(全員;複数回答)



ATM現金引出の利用状況

あなたは月に何回くらい、ATMで現金を引き出しますか。

N=824(全員)



五十日等にATMが混雑する理由

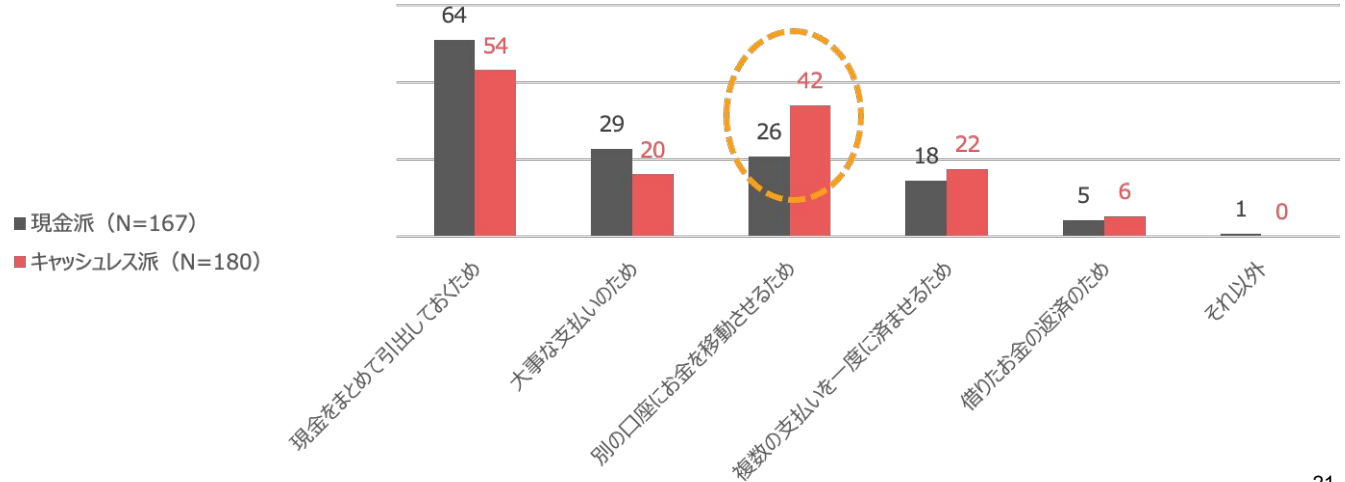
あなたは、銀行口座にお金が入ってくるタイミングに合わせてATMを利用しに行くことがありますか。

N=540 (ATM現金引出を月に1回以上利用する人)



銀行口座にお金が入ってくるタイミングに合わせてATMを利用する理由として、あてはまるものをすべてお答えください。

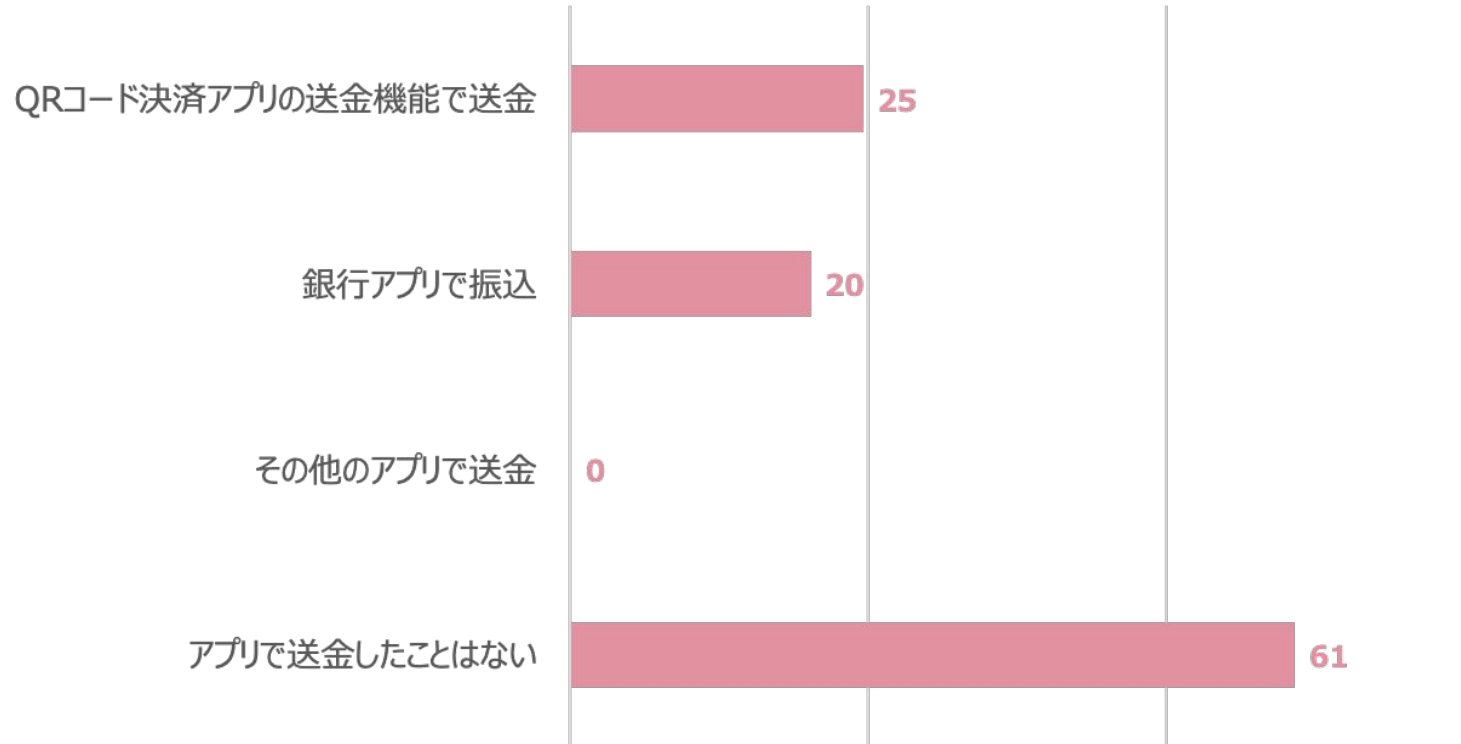
N=347 (上記で「よくある」「たまにある」と回答した347人;複数回答)



スマートフォンアプリでの送金経験

あなたは、スマートフォンアプリを使って送金をしたことがありますか。
以下のうち、利用したことのあるものをすべてお答えください。

N=824(全員;複数回答)

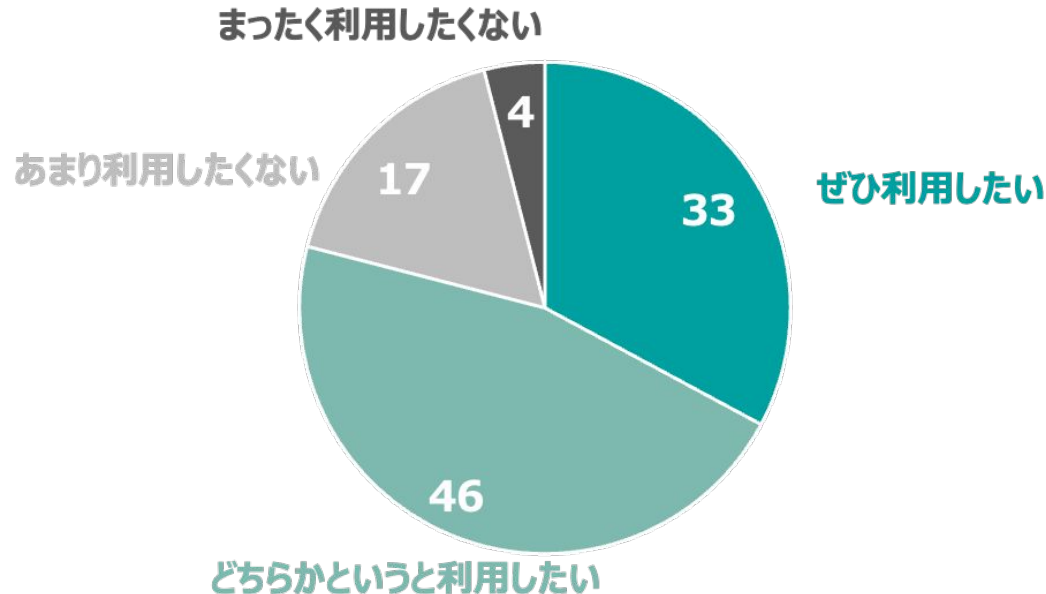


ことら送金への潜在ニーズ

以下のような特徴をもった送金アプリがあった場合、あなたはそれを利用したいと思いますか。

- 特徴1. 自分の銀行口座のお金を、相手に送ることができる
- 特徴2. 送金相手を携帯電話番号で指定できる
- 特徴3. 相手の銀行口座番号などは入力しなくてよい
- 特徴4. 送ったお金は相手の銀行口座に届く

- 特徴5. 自分と相手は、同じ銀行を利用していなくてもOK
- 特徴6. 通常の振込よりも手数料が安い
- 特徴7. 10万円以下の送金に使える



「ことら送金」認知

あなたは「ことら送金」というサービスを知っていますか。

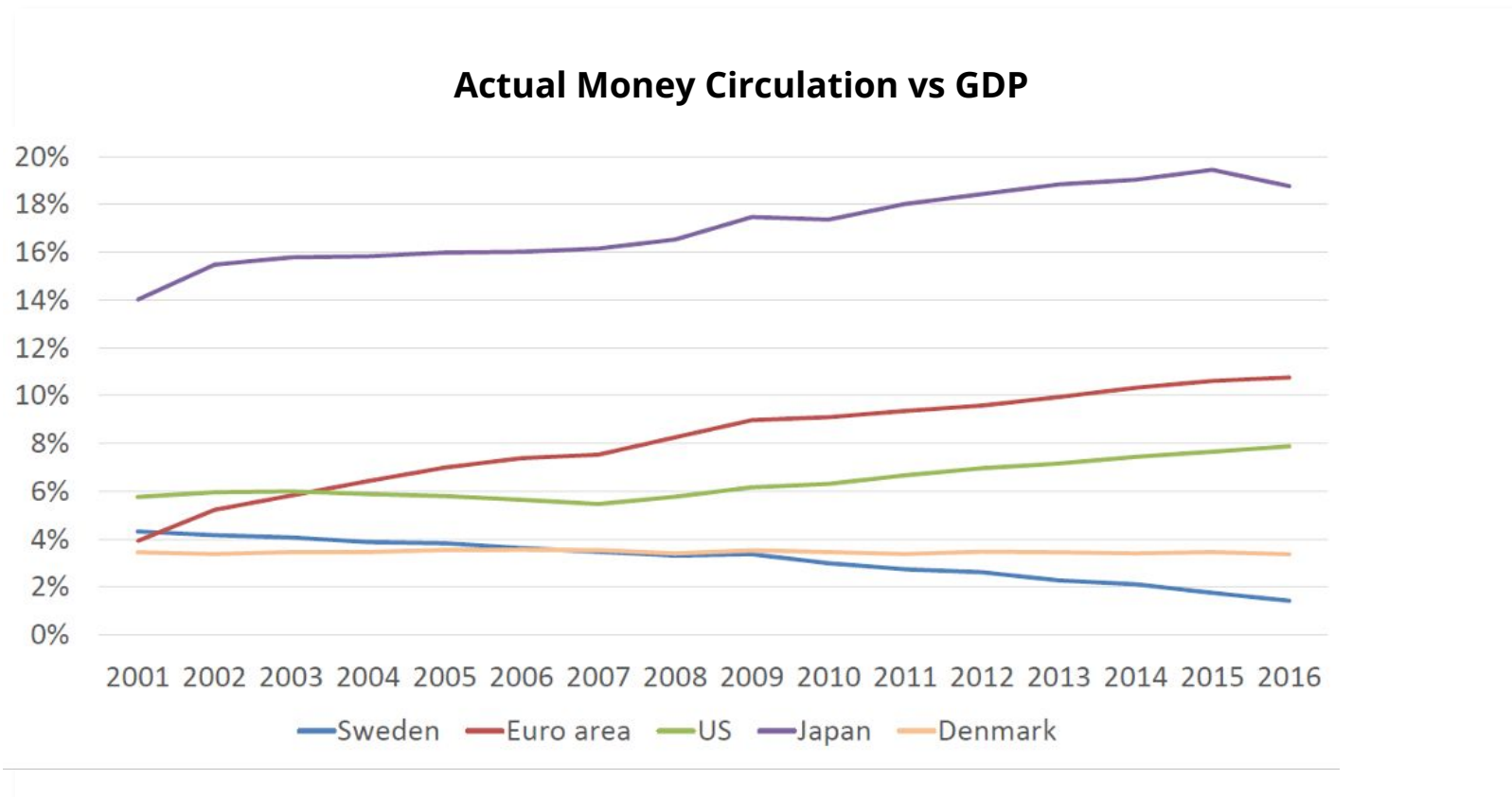
N=317(スマートフォンアプリでの送金経験のある人)

利用したことがある



世界のキャッシュレスについて ～ インスタントペイメント～

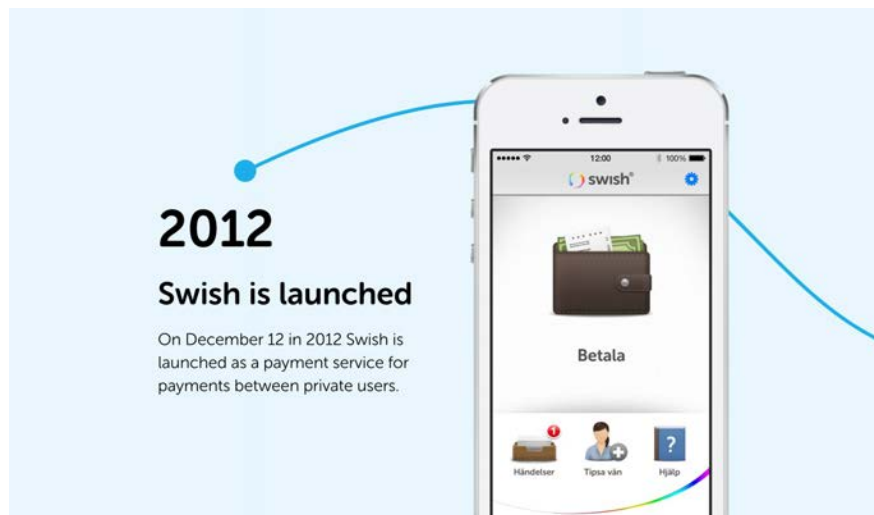
各国の現金流通量の推移



Source: IMF International Financial Statistics

スウェーデンの現金流通抑制に貢献したSwish

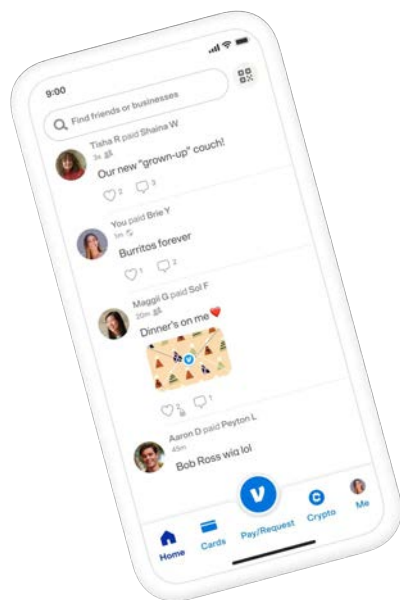
B2Cに続き、C2Cでのキャッシュレス化に寄与



人口の約8割が利用する国民的な決済ソリューション

各国で広がるインスタントペイメント

主たる担い手は、銀行連合 and/or Fintech企業



Venmo
(Launched in 2009)

国名	サービス名	サービス開始日	ユーザー数 (人口比浸透率)
スウェーデン	Swish	Dec, 2012	800万ユーザ (約80%)
デンマーク	MobilePay	May, 2013	620万ユーザー (100%超)
ノルウェイ	Vipps	May, 2015	420万ユーザー (約80%)
米国	Zelle	June, 2017	-
タイ	PromptPay	Jan, 2017	6700万ユーザー (約100%)
シンガポール	PayNow	July, 2017	600万ユーザー (100%超)